



2009.10.30

## 平成 21 年 9 月期国際キワニス日本地区事業報告 (2008.10.1~2009.9.30)

国際キワニス日本地区は、この 1 年間キワニスドールをはじめとする様々なキワニスの奉仕活動を推進するとともに、各クラブへのガバナー公式訪問等を通じ、各クラブの独自性の尊重と情報交換に努めてきました。引き続き、従来の方針を受け継ぐことにより、子ども最優先のキワニス奉仕活動は、必ず全国に受け入れられ、知名度の高揚と会員増強に結びつくものと考えられます。具体的な活動内容は次の通りです。

## 1. クラブの新設と会員増強

クラブ新設については、日本地区として、年間 2 クラブ設立目標としており、各地において新設努力が行われておりますが、当期においては、残念ながら設立にいたったものはありません。会員増強につきまして、会員数 5%の純増 (小規模クラブはチャーターメンバー数確保) の目標に対し、9 月末現在の会員数は 1587 人で、当期初の 1608 人を割り込んで、目標を大きく下回る状況になっております。

## 2. キワニス日本財団の設立

新しい公益法人制度の下でキワニスの公益的資金の調達、支出を効率的に行うための公益法人 (キワニス日本財団—KJF—) 設立を目指し、先ず一般財団法人としてのキワニス日本財団の設立登記を行い、公益法人としての認定を申請しています。

## 3. 国際キワニスへの積極的参画

## 1) 国際会議への積極的参加

国際会議への参加状況は以下の通りでした。

## ①ASPAC セブ大会

参加目標 7 クラブ以上、80 人、実績は 7 クラブ、56 人(含むゲスト・スタッフ)

## ②国際キワニス年次総会ナッシュビル大会

参加目標 7 クラブ、30 人、実績は 4 クラブ、9 人 (含むスタッフ)

## ③国際キワニス ASPAC 研修会 (於 クアラランプール)

4 名参加 (ガバナー、次期ガバナー、事務総長、スタッフ)

## ④日本地区年次総会福岡大会

参加目標 全クラブ 400 人 実績は 26 クラブ、436 人

## 2) 国際キワニス要人の来訪

当期に於いては福岡大会へのゲスト来訪以外とくにありませんでした。なお、小田国際理事

が日本地区担当のカウンセラーとなられ、国際キワニスとの連絡に当たっていただくことになりました。

#### 4. 奉仕活動プロジェクトの推進

当期の日本地区各クラブ活動は、前年に引き続き、キワニスドールの普及活動を中心に、子どものための諸活動が活発に行われました。これは単に奉仕活動を進める目的だけではなく、幼い子どもを癒すキワニスドールをはじめ、子ども最優先のキワニスの奉仕活動を通じて、キワニスを世間に知っていただき、そのことによって、仲間が増える循環を作る目的にも適っているといえます。

##### ① キワニスドール・シンポジウムの開催

キワニス・ワンデイの参加行事の一環として、東京、横浜、埼玉3クラブの共催でキワニスドール・シンポジウムが開催され、ドールを作る側、使う側の双方からそれぞれの経験に基づく発表が行われ、貴重な交流の場となった。シンポジウムの内容は報告書にまとめられるとともにDVDに作成され、今後各方面で活用されることが期待されています。このDVDは英語のタイトルを付けてナシユビルで開催された世界大会での展示にも使われました。

##### ② ドールの寄贈状況

当期の寄贈数は6157個、延べ199箇所の医療機関等に寄贈することができました。

##### ③ キワニス・ワンデイの実施

一昨年4月から国際キワニスの提案で始まった「キワニス・ワンデイ」は 当期も4月4日(土)に行われ24クラブがそれぞれ、独自の奉仕活動を実施しました。

##### ④ クラブの公益的活動への資金助成

各クラブの行う公益的活動に対し寄付会計の繰越金から資金助成を行う制度を発足させ、以下の5プロジェクトに助成が行われました(助成総額920千円)。

- (i) 東京、横浜、埼玉クラブ 「キワニスドール・シンポジウムの開催」
- (ii) 泉州クラブ 「府立母子保健総合医療センターへの”プレーウォール”の寄贈」
- (iii) 千葉クラブ 「子どもと行う里山自然保護活動」
- (iv) 埼玉クラブ 「子育てシンポジウムの開催」
- (v) 芦屋クラブ 「地域ユース育成事業」

#### 5. 懇談会の開催

キワニスの奉仕活動や諸活動を積極的に実施するためには、各クラブが情報交換を通じて各会員の意識の向上を図っていくことが必要であります。一昨年横浜大会の前日に初回懇談会を開催して以来地区役員会の度にこのための時間帯を設けてこれを行うとともに、先般の福岡大会においては「キワニスの明日を語る会」として大会当日に多くの参加者を得て、各クラブの現状報告と問題点の指摘を行い、有意義な議論が行われました。このような会合を通じ会員のキワニス活動に対する理解を深め、活動の一層の広がり期待できると考えられます。今後とも、この種の機会を適宜設けて各クラブの諸活動の資質の向上と会員の研修成果につなげていきたいと考えます。

## 6. 広報活動の活性化

各クラブの努力で、今年も各地のキワニス奉仕活動がマスコミや専門誌に取り上げられました。

「キワニスジャパン」については、極力、記録本位に留める目的で作成しました。今後とも、会員の意見を広く反映しながら、有料に相応しい改善をしていく必要があります。

## 7. 表彰関係

### (1) キワニス日本文化賞

久留米餅の製作に長年従事され、地域における久留米餅の啓発に尽力された松枝哲哉氏に贈呈されました。

### 2) 国際キワニスからの表彰

- ・ 2007-08 Distinguished District : 清重尚弘前ガバナー、横山太藏事務総長
- ・ 2007-08 Distinguished Division : 米澤房朝前副ガバナー
- ・ 2007-08 Distinguished Club : 熊本クラブ
- ・ アニュアル・クラブ・ギフト・キャンペーン : 清重直弘前ガバナー、  
佐藤満秋地区 KIF 委員長
- ・ Benefactor : 林覚乗 (福岡)
- ・ キワニスドール功労賞 : 堀井紀壬子
- ・ 21 世紀ヘリティジ・ソサエティ : 清重尚弘 (熊本)
- ・ ヒクソンフェロー : 市澤洋 (横浜)、小池和子 (西宮)  
黒沢繁 (仙台)、梅田嘉明 (横浜)  
藤澤一就(東京)、田中謙吉 (泉州)  
谷所武 (泉州)、中村嘉隆 (泉州)  
溝畑洋子 (泉州)、柳川博嗣 (泉州)  
小田三千子 (仙台)、中川惇 (東京)

### (3) 日本地区の表彰

昨年10月の役員会で承認されました「評価基準」に基づき、次の表彰が決定しました。

#### 《クラブ表彰》

- ・ 会員増強：最優秀賞：西宮クラブ 優秀賞：高松クラブ、金沢クラブ、福島クラブ、  
大分クラブ
- ・ キワニスドール寄贈数：最優秀賞：埼玉クラブ 優秀賞：東京クラブ、名古屋クラブ、  
大阪クラブ、札幌クラブ、横浜クラブ、京都クラブ、新宿クラブ、新潟クラブ、泉州  
クラブ、西宮クラブ、金沢クラブ、松江クラブ、芦屋クラブ、福島クラブ、大分クラブ
- ・ 寄付活動：最優秀賞：泉州クラブ
- ・ 出席率：(60%以上) : 神戸クラブ、新宿クラブ、新潟クラブ、西宮クラブ、渋谷クラブ、  
松江クラブ、福島クラブ、大分クラブ  
(改善5%以上) : 大阪クラブ、横浜クラブ、京都クラブ、千葉クラブ、新宿クラブ、  
新潟クラブ、西宮クラブ、福山クラブ、芦屋クラブ
- ・ ASPAC と国際年次総会出席： 東京クラブ、仙台クラブ
- ・ ガバナー特別表彰：東京クラブ (キワニスドールシンポジウムの三クラブ合同開催)、

横浜クラブ（キワニスドールシンポジウムの三クラブ合同開催）  
埼玉クラブ（キワニスドールシンポジウムの三クラブ合同開催）  
西宮クラブ（「衛星クラブ制度」の導入）

《個人表彰》（新入会員を2名以上紹介）：10クラブ 23名

#### 8. 募金及び寄付活動

当期も、各クラブの協力を得て、アニュアルクラブギフト・キャンペーンで 2,950 千円、ホリデーボックス募金(今回初めて KIF から呼び掛けがあったもの)で 370 千円、パキスタン少女人工内耳手術支援募金で 343 千円、イタリア地震災害義捐金 923 千円の募金を行いました。

日本地区としてはこれらの募金に加え繰越金からの拠出を行い、アニュアル・クラブ・ギフトとして 1,950 千円（20 千 US ドル 募金額との差額は繰越金に含まれて KJF へ移管され、その助成・寄付活動の原資や管理費用に充てられることとなります。）、ホリデーボックス寄付金として 370 千円をそれぞれ KIF へ、パキスタン少女内耳手術費用支援としてカラチ・キワニスクラブへ 640 千円（約 7 千 US ドル、繰越金からの追加 300 千円）、イタリア地震災害義捐金として 738 千円（管理費用控除後）の寄付を行いました。また前述のように各クラブの行う公益的事業を支援するため 920 千円の拠出を繰越金から行いました。

次期以降、これら募金及び寄付活動は KJF により行われますので、寄付会計は繰越金を含め KJF へ移管されます。移管後、台湾における台風 8 号被害の救済募金及びフィリピン台風被害義捐金の募集を行ないました。

以上